漢字のうた【達人コース～九段～】

1

名も知らぬ　遠き島より　流れ寄る　椰子の実一つ
故郷の　岸を離れて　汝はそも　波に幾月
旧の木は　生いや茂れる　枝はなお　影をやなせる
われもまた　渚を枕　孤身の　浮寝の旅ぞ
実をとりて　胸にあつれば　新なり　流離の憂
海の日の　沈むを見れば　激り落つ　異郷の涙
思いやる　八重の汐々　いずれの日にか　国に帰らん

（島崎藤村　『椰子の実』）

2

まだあげ初めし　前髪の　林檎のもとに　見えしとき
前にさしたる　花櫛の　花ある君と　思ひけり
やさしく白き　手をのべて　林檎をわれに　あたへしは
薄紅の　秋の実に　人こひ初めし　はじめなり
わがこゝろなき　ためいきの　その髪の毛に　かゝるとき
たのしき恋の　盃を　君が情に　酌みしかな
林檎畠の　樹の下に　おのづからなる　細道は
誰が踏みそめし　かたみぞと　問ひたまふこそこひしけれ

（島崎藤村　『初恋』）